カスミサンショウウオ

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類　　サンショウウオ目

Hynobius nebulosus (Temminck et Schlegel)　　環境省：絶滅危惧Ⅱ類　　サンショウウオ科

選定理由

県内に広く分布するが、非常に不安定な環境下に生息する。農業従事者の高齢化・後継者不足等による山際の水田・畑地の耕作放棄、圃場整備等による水場の消失と、乾燥化により産卵場所を失い、急速に個体数を減らしている。

存続を脅かす要因

林相変化、池沼開発、用水路改修、ダム建設、土地造成、圃場整備、業者・マニア採取、側溝転落、水質汚濁、農薬汚染、産地局限

分布状況

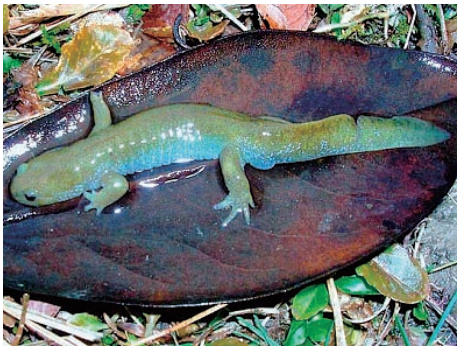
丘陵地や山地の池沼周辺の林床に生息する。日本固有種で、本州の鈴鹿山脈以西に広く分布する。岡山県では全域に分布するが、産地は局所的で個体数も少ない。

生息情報

小型の止水性サンショウウオで、全長 70 ～ 110mm 前後。体側に灰色の地衣状斑紋や尾の上下両縁に淡黄褐色の条をもつ個体が多い。1 ～ 4 月ころ山際の池や沼、田溝、畑の溝などの浅い止水中で産卵する。卵は 1 対のバナナ状あるいはコイル状の透明な卵のうに包まれ、枯れ枝や石などに付着させる。約 1 か月でふ化した幼生は外鰓とバランサーを持つ。約 3 か月で変態し、上陸する。

文献番号　5，11，12

（伊藤邦夫、江田伸司、山田　勝）



撮影：山田　勝

ブチサンショウウオ

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類　　サンショウウオ目

Hynobius naevius (Temminck et Schlegel)　　環境省：準絶滅危惧　　サンショウウオ科

選定理由

山間渓流以外にも中部の里地に近接した小渓流などに生息があり、開発等により人知れず絶滅する可能性がある。

存続を脅かす要因

森林伐採、林相変化、河川開発、川相変化、ダム建設、道路工事（林道工事）、土地造成、水質汚濁、産地局限

分布状況

山地の渓流付近に生息する。日本固有種で、鈴鹿山脈以西の本州・四国・九州に分布する。岡山県では主に中北部の標高の高い山地の渓流付近に分布するが、生息地は飛び地的で、個体数も限られる。

ヒダサンショウウオとは、幼生の区別が難しく、新見地方では両種の幼生をカクと混称する。

生息情報

小型の流水性サンショウウオで、全長 100 ～ 130mm 前後。背面は紫がかった暗褐色で、地衣状斑紋がある。上顎中央の歯列は浅いＶ字形。山地の渓流近くで生活し、小動物を捕獲する。4 ～ 5 月ころ流水中の石の裏や渓流の倒木の下などに 1 対の透明なバナナ状の卵のうを産み付ける。

文献番号　5，11，12

（伊藤邦夫、江田伸司、山田　勝）

撮影：山田　勝